



# 北リアスの風

1

久慈病院での  
初期研修を通して

2

地域医療福祉連携室  
からのお知らせ

## 久慈病院での初期研修を通して

岩手県立久慈病院

2年次研修医 青山 龍平

2年次臨床研修医の青山龍平と申します。久慈病院での2年間の研修生活も、いよいよ修了を迎えようとしています。この機会に、研修を通じて学んだことを振り返るとともに、お世話になった皆様への感謝の気持ちをお伝えできればと思います。

研修を通じて特に強く感じたのは、高齢化が進む地域ならではの課題です。心不全で入院された方が退院後に転倒して再入院されるケースや、脳梗塞の後遺症を抱えながら糖尿病・慢性腎不全の管理も必要になるケースなど、複数の病気を抱える患者さんは少なくありませんでした。一つひとつの疾患を治療するだけでは不十分であり、生活全体を見据えた診療が求められることを実感した2年間でした。また入院中の患者さんの中には、独居やご家族の介護疲れといった背景を抱える方も多く、医療だけでは支えきれない社会的課題の存在を痛感しました。このような課題は退院の際に障壁となってきます。入院中の治療をいかに在宅につなげていくか、介護職やケアマネジャーと情報を共有し、生活の場に合わせた医療を考えることは、地域で暮らす患者さんにとって不可欠な支えになると感じました。医療者が病院の中だけで完結するのではなく、地域全体で患者さんを支える視点を持つことが重要だと感じました。さらに当直業務では、夜間の救急外来で軽症から重症まで幅広い患者さんを初療しました。限られた資源の中で最善を尽くすこと、そして自分一人で抱え込まずに上級医に相談することの大切さを学んだ時間でもありました。

2年間の研修を通じて感じたのは、医療は単に病気を治すことだけではなく、地域の暮らしそのものを支える基盤であるということです。とりわけ高齢化が進む久慈医療圏では、医療と介護、家族や地域社会のつながりが欠かせません。この2年間で学んだことを糧に、患者さんの生活や人生に寄り添う医師として、これからも研鑽を重ねてまいります。

最後に、2年間を通じて温かくご指導くださった上級医の先生方、そして看護師・薬剤師・放射線技師をはじめとするメディカルスタッフの皆様には、心より感謝申し上げます。皆様のサポートがあったからこそ、安心して患者さんと向き合うことができたと感じています。本当にありがとうございました。

岩手県立久慈病院

2年次研修医 山崎 稜河

平素よりお世話になっております。久慈病院臨床研修医の山崎稜河と申します。

この度久慈病院での研修について執筆する機会をいただきましたので、振り返るとあっという間でした。2年間の研修生活の中で、特に印象に残ったことを述べさせていただきます。

まず強く感じたのは、病院という組織の奥行きと広がりでした。研修を始めた当初、私は「わからないことがあれば上級医に聞けばよい」と単純に考えていましたが、実際の臨床現場では、問題の本質を理解し、誰に相談し、どの部署と連携すべきかを考えること自体が重要であることを学びました。右往左往しながらコメディカルの方々に助けていただき、少しずつ各部門の役割を理解していく過程で、学生時代に学んだ「チーム医療」という言葉の意味を、臨床の現場で実感することができました。久慈病院では、多職種との距離が近く、互いに顔の見える関係の中で医療が成り立っており、その温度感はこの病院ならではのものだったと感じています。

次に、医療を実行するための「準備」の重要性を学んだことです。学生時代は医療を机上で理解しているに過ぎませんでした。実際の臨床ではオーダーの方法、薬剤の投与量や速度、処置に必要な物品の準備など、診療に至るまでの過程に様々な準備が必要であることに驚嘆しました。久慈病院では、限られた資源の中で工夫しながら診療を行う場面も多く、「準備」の意味をより現実的に理解できたことは、他では得難い経験だったと思います。

臨床においては、患者さんとの関わり方について深く学ぶことができました。当直業務を始めた当初は、病歴聴取や患者さんへの説明に戸惑い、自身のコミュニケーション能力の未熟さを痛感していました。しかし何度も様々な工夫や経験を重ねるうちに、その時々に対処する患者さん、そして自分自身のパーソナリティを反映した診療を形作っていくことが重要であると気づくようになりました。この学びは、患者さんの生活や家族、地域社会と医療とが密接に結びつき、その関係性を肌で感じながら診療に携わることができる久慈医療圏の環境が存在したからこそ、得ることができた診療観であったと考えています。

また久慈での研修生活は、病院の中だけで完結するものではなく、仕事終わりに行く同僚や先輩・多職種の方々と飲み会、地元のおいしい食材、海や山に囲まれた風景、地域の方々の温かい言葉、そうした日常の一つ一つが、医師としての自分を形作る土台になっていたように思います。

まだまだ未熟な点は多く、学ぶべきことは尽きませんが、久慈病院で過ごした2年間は、今後の医師人生の原点となる経験でした。ここで得た知識や技術だけでなく、人との関わり方や医療の在り方、そして地域とともにある医療の価値を胸に刻み、今後も研鑽を続けていきたいと思っております。

最後になりますが、これまでご指導いただいた先生方、支えてくださったコメディカルの皆さま、そして温かく迎えてくださった地域の方々に深く御礼申し上げます。

久慈病院研修医2年次の菅原克祥と申します。思えば2年前、私は福島県立医大を卒業して8年ぶりに岩手へ戻り、やっと岩手で働けると心からワクワクしていました。そこから今日に至るまで、本当に充実した毎日を過ごすことが出来ました。

同期4人とは、症例について議論を重ねたり指摘し合いながら、切磋琢磨してまいりました。その一つ一つが私を確実に成長させてくれたと今でも思いますし、そうした中でプライベートでも仲良くやってこれたのは大きな喜びであり安心でもあります。上級医の先生方からは、時に厳しい叱責も受けましたが、その言葉の裏にある責任の重みを深く感じながら成長してこれました。そして何より、この久慈市という街の存在が、私の研修生活を豊かなものにして下さいました。おいしいごはんやお酒もちろんそうですが、一方で温かい地域の皆さまや地域医療の現場で学んだのは、病を診るだけでなく、人を診るという視点でした。

私は来年度から腎臓内科医として歩みを進めます。残念ながら、現在久慈地域には腎臓の専門医が常勤している医療機関はありません。しかし遠いいつの日か、この街の皆さまの腎臓を守る医師として再びここに立つ日が来るかもしれません。その暁には、胸を張って「帰ってきました」と言えるよう、まずは一人前の腎臓内科医へと成長してまいります。久慈で過ごした2年間への感謝を胸に、次の舞台へ歩みを進めます。

皆さま本当に2年間ありがとうございました。

研修を振り返ると、日々の診療の中で多くの学びと経験を得ることができた大変充実した2年間であったと感じています。

久慈病院では、各科の先生方が非常に熱心に指導して下さり、臨床の現場で実践的な知識や技術を学ぶことができました。救急外来や病棟業務の現場でも疑問に思ったことをすぐに相談できる環境が整っており、安心して診療に向き合うことが出来たことは非常に大きな支えでした。

また、医師だけでなく多職種のスタッフの方々との距離が近く、チーム医療を実感できる環境であったことも良かったと思っています。看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、検査技師、事務局員の方々など、多くの職種の方々が日々の診療を支えて下さっており、気軽に相談や意見交換が出来る雰囲気がありました。患者さんにより良い医療を提供するためには、こうした多職種の連携が欠かせないことを、日々の診療を通して実感することができました。また、温かく声をかけてくださるスタッフの方々のおかげで、のびのび研修に取り組むことができたと感じています。

最後になりますが、これまでご指導いただいた先生方、日々の診療を支えて下さった病院スタッフの皆さま、地域の他医療機関の皆さまに、心より感謝申し上げます。久慈病院での研修で得た経験と学びを今後の診療に活かし、患者さん一人ひとりに真摯に向き合える医師を目指して、これからも努力を重ねていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



## 2

### 地域医療福祉連携室からのお知らせ

#### F A X予約へのご協力をお願い

当院では、紹介状をお持ちの患者様を優先して診察しております。

当院へ患者様を紹介していただく際は、予めF A Xでの受診予約をしていただきますと、事前にカルテの準備をしておくことができ、来院後の手続きや診察などの待ち時間も少なくなります。

混雑回避や待ち時間削減のためにも、F A X予約へのご協力をお願いいたします。

なお、急患などで当日受診を希望される場合は、直接、担当医または、各診療科までご連絡いただきますよう、お願いいたします。  
(連絡は代表TEL：0194-53-6131へお願いいたします)



# 北リアスの風